

「自分の考えに合った記事を書いて『わたし・ぼくのメッセージはなんでショー』を開こう！！」イメージ図(全7時間)

授業改善のポイント…ア(主体的な学びの喚起) イ(文章全体の構成を把握して読む場面) ウ(自分の考えを明確にする場面) エ(交流タイム) オ(評価の工夫)

第一次	第二次			第三次		
言語活動全体の見通し	教科書教材を目的を持って読む			自分の表現に適用する		
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
<p>★学習課題を知り、学習に見通しを持つ。</p> <p>自分の考えに合わせて新聞記事をつくりかえ、「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開こう。</p> <p>・教師のモデリングにより学習の見通しを持つ。 ・モデリングを基に、単元の学習の流れと「評価をするときに基とするもの」を確認する。</p> <p>主体的な学び</p> <p>★新聞に興味を持つ。</p>	<p>★記事のつくりをつかむ。</p> <p>・見出しやリード、本文の働きをつかむ。</p> <p>★実際の記事で確かめる。</p> <p>・関心のある記事を読んで、新聞の構成について確かめる。</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★二つの記事を比較して読み、共通点をとらえる。</p> <p>・同じ話題を扱った二つの記事を比較して読み、どちらにも共通して取り上げられているキーワードを読み取り、事実と意見などとの関係をとらえる。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>★二つの記事を比較して読んで相違点をとらえる。</p> <p>全体把握して読む</p>	<p>★二つの記事の、記者のメッセージを読み取る。</p> <p>・「A社、B社のメッセージはなんでショー」を開く。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>目的のある交流</p> <p>★自分が取り上げて再構成する記事を決め、読む。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★取り上げた新聞記事を再構成する。</p> <p>・第二次で学んだことを基に、取り上げた新聞記事について、自分の考えが明確に伝わるように再構成する。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>・再構成した新聞記事を読み合い、意見交流する。</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★取り上げた新聞記事を再構成する。</p> <p>・第二次で学んだことを基に、取り上げた新聞記事について、自分の考えが明確に伝わるように再構成する。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開く。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>目的のある交流</p>
単元を貫く言語活動：新聞記事を自分の考えに基づいて再構成する						
評価の工夫						

日常的な言語活動(新聞を読む)

新聞の並行読書と新聞記事のストック&スクラップ

梅雨の季節の代表選手のカタツムリ

「カタツムリ」先生が102の新種発見！

「カタツムリ先生」こと〇〇さん。梅雨の季節に大活躍



身近で見かけるカタツムリ



色鮮やかなアジサイ。この季節によく目にします

雨が多くなる梅雨の季節。この季節によく見かけるのがカタツムリです。〇〇県〇〇市の〇〇さんは、新しいカタツムリを102種見つけ、「カタツムリ先生」と呼ばれています。季節によって、身のまわりで見かける動植物は変わっていきます。みなさんも、この季節ならではの楽しみを見つけませんか。

〇〇県の〇〇さんは、これまで全国を巡ってカタツムリの研究をしてきました。研究きよ点の自宅にはカタツムリの標本が約五万个。研究をまとめた論文やしつ筆した本、そして海外で集めたカタツムリのおきもの……。「起きてから寝るまで、カタツムリのこと頭がいっぱいです」と〇〇さん。これまで〇〇県で「〇〇」を新種として発見しました。新種の名前をつけたのは〇〇さんです。

〇〇さんによると、「カタツムリはかんそうがきらいで、神社、お寺、公園、森などのじめじめした場所にいることが多い」そうです。また、カタツムリは一年中いますが、梅雨は見つけやすい季節だそうです。

梅雨の季節によく目にするのは、カタツムリだけではありません。アジサイの花もよく見かけます。アジサイはむらさきがかかった色のもの、赤味がかかった色のものなど、淡い色合いで、わたしたちの目を楽しませてくれます。学校の行き帰りに、アジサイを目にしたことがある人もいるでしょう。

日本は季節それぞれに特徴があります。その季節ならではの楽しみ方ができます。雨の降ることが多い梅雨の季節。この時期ならではの楽しみ方を見つけてみませんか。

第5学年 国語科 学習指導案

1. 本単元で付けたい力

自分の考えを明確にしながら読む力

(読む過程において、筆者の意図や思考に着目して文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験などと関係付けて、自分の立場から自分の考えを明確にしながら読むことができる力)

2. 単元名 自分の考えに合った記事を書いて「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開こう！！

(「新聞記事を読み比べよう」東京書籍5年上)

3. 単元目標

目的に応じて新聞記事の内容や表現方法をとらえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

【読むこと】

4. 「目指す児童の姿」

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
新聞記事を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(自分の考えの形成及び交流)	見出し、リード文、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえ、その内容や表現方法について自分の考えを明確にしている。(説明的な文章の解釈)	記事に使われている言葉や文章の効果や構成について理解している。

5. 本単元における言語活動

「自分の考えを明確にしながら読む力」を付けていくために、本単元では「新聞記事を自分の考えに基づいて再構成する」という言語活動を位置付ける。領域を「読むこと」とし、具体的には記者の意図に基づいて書かれた新聞記事を、児童の考えに基づいて再構成する活動を中心に展開する。

本単元の学習に入る前に、「^{おい}次 言語生活と学びの接続」として、小学生向けの新聞の読書を開始する。児童が関心を持った記事を取り上げて話題とし、考えたことや思ったことについて自由に話し合う場を設けることで、学習に対する興味・関心・意欲や課題意識を高めておく。また、単元の学習前に「言語生活と学びの接続」をしておくこと、学習後も継続して新聞の読書を行うことで、児童の読書生活と学習内容がつながる。そのことで国語科の学習が今後の言語生活へ転用可能なものになり、学びの有用性の実感が増すと考える。

新聞記事は、記者の意図が反映した内容になっており、同じ内容を取り上げた記事でも、ねらいが異なると論の展開や使用する図表・写真は異なり、結論も異なったものになる。第一次では、ある新聞記事と、同じ内容を指導者が再構成した記事を提示し、「先生のメッセージはなんでショー」を開く。第三次で行う活動のモデルを示すことにより、児童が学習の見通しを持ちやすくなる。このことにより一貫した目的意識を児童が持つようになり、主体的な学びが展開できるようになると考える。また、新聞をはじめとしたメディアからの情報は記者の意図が反映されたものであること、それらを受け取る際には自分の考えを明確にしておくことが大切であることに気付く児童もいると予想される。

モデル提示のときには、次のような言語意識も持たせておく。

①相手意識「クラスや学年、他の学年の友だち、学校の先生方に見てもらおう。」

②目的意識「自分の考えに基づいて再構成した新聞記事を紹介しよう。」

③方法意識「新聞記事を読んで考えたことを基にして書き換えた新聞記事を紹介する。」

④評価意識「(『評価をするときに基とするもの』を基に) 新聞記事の特徴や記者の意図をとらえているか。自分の考えが分かるように新聞記事を再構成しているか。」

第二次では、文章全体の構成をとらえるために、まず、新聞記事の「逆三角形の構成」と言われる結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述される特徴を読み取る。その特徴を押さえた上で、記

者の意図と論の展開、図表・写真を関係付け、効果的に伝えたいことが表現されているかについて考えていく。その際、根拠とした部分、そこから考えたことを紹介させることによって自分の視点を持てるようにし、児童の意図に基づいた記事の構成の仕方について交流し、考えを広げ深める機会とする。

第三次では、児童自らが選んだ新聞記事を、自分の考えに基づいて再構成する言語活動を行う。これまでの学習で読み取った新聞記事の基本構成、自らの知識や経験などに基づいた自分の立場から考えたことを再構成する際に取り入れていく。この活動により、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用することができる。また、第三次で行うこの活動を念頭に置いて児童がそれまでの学習を進めることにより、教材文を読む目的や視点が明確になる。単元を貫いた目的意識を持つことで、全ての学習がつながり、学びを進める中で児童の考えの形成が促進されると考える。

6. 交流について

交流には、「気付くため」「深める（共通点・相違点を見つけて考える）ため」「別の視点で考えるため」「決めるため」「自分の考えを再構築するため」などの、様々な目的がある。その目的を児童が自覚していないと、学習効果は表れてこないと考える。そこで、本単元では、交流を行う際、その時間の具体的な目的を児童に示す。本単元における交流の目的は、以下の通りである。

第2時	新聞記事の特徴について実際の記事で確かめたことを伝え合い、その特徴についての理解を深めるための交流
第4時	自分がとらえた教材文の新聞記事のメッセージを、根拠を示して伝え合い、新聞記事の再構成につなげるための交流
第5時	教材文の新聞記事を自分で再構成したものを基に、自分が考えたことを伝え合い、別の視点で考えたり、意見や助言を受けたりして、自分の考えを見つめ直すための交流
第7時	自分が選んだ記事を再構成したものを基に、自分が考えたことをグループで伝え合い、確認したり参考にしたりして、学習のまとめをするための交流

【本単元における交流の目的】

これらの目的を、交流する前に児童へ伝えることにより、児童が目的を持って交流に臨めるようにし、学習効果を高めていく。

7. 評価について

従来から、指導と評価の一体化といわれてきたが、実際には、評価の方法や評価のタイミング、「目指す児童の姿」（評価規準）に満たない児童への手立ての方法と時期が明確でないことが少なくなかった。

そこで、本単元では、児童が主体的に学び、自分の考えを明確にしなが読む力を身に付けていけるようにするために、形成的評価や総括的評価を「主体的な学びを喚起する評価」「一時間の学びに対する評価」「単元を貫く言語活動に対する評価」の三つに分けて行っていく。「主体的な学びを喚起する評価」は従来の自己評価としての意味合いが強く、「一時間の学びに対する評価」の中の自己評価を活用する。具体的には、一時間ごとに自分の学びに対する評価を付箋に書かせ、次時の学習の導入時に紹介する。「一時間の学びに対する評価」は、いわゆる形成的評価で、単元の出口の言語活動のためできるだけ力が付いたかを評価するものである。各時間の指導・学習内容により、教師からの評価だけでなく、相互評価や自己評価なども取り入れる。「単元を貫く言語活動に対する評価」では、第一・二次で、第三次の言語活動を意識して学習したことに対する評価（主として、情意面の評価）を行い、第三次で『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価（総括的評価）を行う。

「一時間の学びに対する評価」や『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価を行う際、「目指す児童の姿」や「評価をするときに基とするもの」に満たない児童に対する手立ての内容とその時期を明確にし、評価を指導につなげていく。このような評価を行うことで、指導と評価を一体化させ、主体的な学びを喚起するとともに、付けたい力を身に付けさせていきたい。

	第一次	第二次			第三次		
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時
単元言語活動を貫く対する評価	モデリング 「評価をするときに基とするもの」					「評価をするときに基とするもの」を用いた言語活動に対する評価(総括的評価:「読むこと」の学習を生かした表現の内容)	
	単元の出口(第三次)の言語活動を意識して学習したことに対する評価(主として、情意面の評価)						
主体的な学びを喚起する評価		前時の自己評価を紹介 ↓ 学習意欲の喚起	教師からの評価だけでなく、児童が他の児童のよさに目を向けて感想を書いた場合は、意図的に紹介する。				
一時間の学びに対する評価	本時の目標 発表のモデルを見たり新聞を読んだりする活動を通して、興味や見通しを持つとしている。 評価 ・教師からの評価(態度・発言) ・自己評価(付箋)	本時の目標 新聞の特徴や編集の仕方、記事の書き方などを理解し、新聞記事を読み取ることができる。 評価 ・教師からの評価(態度・発言・付箋) ・相互評価(交流) ・自己評価(付箋)	本時の目標 二つの新聞記事を比較して読み、共通点や相違点を読み取ることができる。 評価 ・教師からの評価(態度・発言・記述内容) ・自己評価(付箋)	本時の目標 二つの新聞記事を比較して読み、記者のメッセージを読み取ることができる。 評価 ・教師からの評価(記述内容) ・自己評価(付箋)	本時の目標 自分の伝えたいメッセージを基にして、取り上げた新聞記事を再構成できる。 評価 ・教師からの評価(態度、再構成した新聞記事) ・相互評価(交流) ・自己評価(付箋)	本時の目標 自分の伝えたいメッセージを基にして、取り上げた新聞記事を再構成できる。 評価 ・教師からの評価(態度、再構成した新聞記事) ・相互評価(交流) ・自己評価(付箋)	本時の目標 自分の視点から再構成した新聞記事を評価し合い、自分の考えを広げたり深めたりできる。 評価 ・教師からの評価(再構成した新聞記事) ・相互評価(交流) ・自己評価(付箋)

【本單元における三つの評価】

- ・「主体的な学びを喚起する評価」 …… 「一時間の学びに対する評価」の児童の自己評価を次時の導入時に紹介
- ・「一時間の学びに対する評価」 …… 単元の出口の言語活動のためにどれだけ力が付いたか評価(指導者・児童)
- ・「単元を貫く言語活動に対する評価」 …… 言語活動を意識して学習したことに対する評価、総括的評価

* 「主体的な学びを喚起する評価」では、各時間の学習課題に対応した自己評価を取り上げる。

(例) **学習課題例**⇒第3時…二つの新聞記事を比較して読み、共通点や相違点を読み取ることができる。

付箋に書かれたAさんの自己評価(例)⇒私は二つの新聞記事を比べてみて、両方に書かれていることと、片方しか書かれていない内容があることにおどろきました。同じ事実を伝える記事でも、書いている人の感じたことや考えによって、変わってくる部分があるのかなあ、と思いました。

※第4時のはじめに、学習課題に対応した自己評価を、「Aさんは、同じ事実を伝える記事でも、共通する部分と違っている部分があるのにおどろいたんだね。違っている部分に注目すると、書いている人の感じたことや考えが分かってきそうだね!」などと、指導者がコメントとともに紹介する。

*評価に関して、基準に満たない児童に対して、「一時間の学びに対する評価」では、本時の目標に照らして以下のような手立てを講じる。

評価のタイミング 手立ての時期	指導者が見取った児童の つまずきの原因	手立ての例
学習活動中であれば、その場で手立てを講じる。	既習の内容が定着していない	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容について確認する。 「前の学習で、〇〇のやり方について学習したね。そのやり方を使って、考えてごらん。」 既習の内容が分かるようなメモを作成し、児童に渡す。
学習後であれば、次時の学習活動前や学習中に手立てを講じる。	学習課題を意識できていない	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を確認する。 「今日の学習課題は、〇〇だったね。そのことを意識して△△のことを考えてみると、どうなるかな？」 「〇〇の学習活動で、どんなことをはっきりさせるんだったかな？」 「〇〇と考えているのは、どうして？」
	学習の見通しを持っていない	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体、各時間の学習の見通しを持てるよう助言する。 「この活動が終わったら、何の活動をするつもりをしている？」 「次の活動では、〇〇をすることになっていたね。今やっている活動は、〇〇にどんな風に役立つかなあ。」 「先生に、用意しておいてほしいものは、ありますか？」
	自分の考えを持っていない	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを整理し、考えが持てるよう助言する。 「どんな目的で、〇〇の活動をしているんだったかな？」 「お話の中には、どんな出来事が書かれていたかな？」 「お話の中には、〇つの出来事が書かれていたね。どれが心に残ったの？」 「〇〇さんは、どんなことを考えているか、聞いてごらん。」

(例) 第4時…見出し、リード文、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえている。

〔読〕 ★記述内容

Cさんのとらえた各記事のメッセージの記述例

⇒A社…初夏のたま川にアユがたくさんさかのぼってきた。春に川をさかのぼるアユを「江戸前アユ」とよぶ。

B社…高度経済成長期には、たま川にはほとんど生き物のすがたが見られなかったが、人々の努力でたま川は以前のすがたに戻りつつある。アユはそのしょうちょう的存在だ。

Cさんの記述は、B社のメッセージはとらえていますが、A社のメッセージはとらえられていません。前時に学習したそれぞれの新聞記事の内容の共通するところを確認し、見出し、リード写真の相違点に注目するように指示するように指導します。また、文中の言葉が活用できるよう、3・4年の学習内容にさかのぼって、事実と意見との関係についても確かめます。

指導例

「Cさんは、A社のメッセージをこのようにとらえたんだね。前の時間に、A社とB社の新聞記事には『東京湾、多摩川、さかのぼる』などの共通するキーワードがあったね。その事実を基に、リード文や記事の最後のところに、記者はどのようなことを書いているかな。」(事実と意見との関係、リードや記事の記述内容を確認してから)
「そうそう、釣り人のことやアユ釣りの解禁のことが書かれているね。また、『待ちに待ったアユのシーズン』とも書かれているね。じゃあ、A社のメッセージは、どうなるかな。」

*同様に、「単元を貫く言語活動に関する評価」の中の「『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価」に対する手立てについては、8.「評価をするときに基とするもの(教師用)」で述べる。

8. 「評価をするときに基とするもの（教師用）」

* 尺度3が「目指す児童の姿」（評価規準）のBにあたる。

尺度	再構成した新聞記事の内容
4	・元の記事の内容や記者の意図を的確に押さえて要旨をとらえるとともに、記者の意図と記事との関連、それらに対する自分のとらえを基に、自分の考えが明確に分かるように事実と意見などの関係を明確にしなが新聞記事を再構成している。
3	・元の記事の内容や記者の意図をとらえ、自分の考えが分かるように新聞記事を再構成している。 ・元の記事の内容はとらえられているが、記者の意図が正しくとらえられていない。しかし、自分の考えに基づいて新聞記事を再構成している。
2	・元の記事の内容の大体はとらえられているが、記者の意図がとらえられていない。自分の考えを持てず、新聞記事を再構成することができない。
1	・元の記事の内容や記者の考えをとらえられていない。自分の考えを持てず、新聞記事の再構成もできていない。
0	・無解答

*ここで示した「評価をするときに基とするもの」は、指導者が「単元を貫く言語活動に対する評価」を行うときに活用するものである。指導と評価の一体化を図るためには、児童と指導者がこの内容の観点を共有しておくことが重要である。このことで、児童が単元を貫いたためあてを持つことができる。そのため、第一次で、指導者が作成したモデリングの提示をするときに、自分が選んだ記事でモデルのような活動するにはどんな力が必要か、児童が考えて全体交流し、教師が児童の言葉でまとめるようにする。

*『「評価をするときに基とするもの」を基にした言語活動に対する評価』に関して、基準に満たない児童に対して、以下のような手立てを行う。

< 3に達していない児童に対して >

評価のタイミング	手立ての時期	手立ての内容
第5、6時の学習活動中	第5、6時の新聞記事を再構成するとき	・児童が選んだ記事を、事実と記者のメッセージが書かれている部分を整理しながら一緒に読む。 ・記事を読んで、どのように思ったかを聞く。 ・使いやすい新聞の枠を選ぶよう助言する。
学習後	第5、6時の新聞記事を修正するとき	・学習活動中に支援した内容を基に助言する。修正点がある場合は、書き直すように助言する。（なお、修正点は、児童の書いた文章を基に、個に応じた内容になる。）

< 2、1に達していない児童に対して >

評価のタイミング	手立ての時期	手立ての内容
第5、6時の学習活動中	第5、6時の新聞記事を再構成するとき	・児童が選んだ記事を、事実と記者のメッセージが書かれている部分を整理しながら一緒に読む。 ・記事を読んで、どのように思ったかを聞く。 ・見出し、リード文を一緒に考える。 ・使いやすい新聞の枠を選ぶよう助言する。
学習後	第5、6時の新聞記事を修正するとき	・学習活動中に支援した内容を基に助言する。修正点がある場合は、書き直すように助言する。（なお、修正点は、児童の書いた文章を基に、個に応じた内容になる。）

9. 単元計画

(*評価… [] は観点、★は、評価の方法を示す。)

次	時	学習活動	評価	日常的な言語活動
○		「言語生活と学びの接続」 ◆小学生向けの新聞を読む。 ○児童が関心を持った記事について取り上げて話題とし、考えたことや思ったことについて自由に話し合う。	・新聞記事に関心を持ち、進んで読書しようとしている。[関] ★態度、発言	日常的な言語活動 ストックする 【集める】新聞記事を読む 【並行読書】新聞記事
一	①	◆学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 自分の考えに合わせて新聞記事をつくりかえ、「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開こう。	・記者の意図による新聞の編集の仕方や記事の書き方の違いに興味を持ち、新聞のよさや面白さを見つけな	

	<p>○「先生のメッセージはなんでショー」を開き、実際の新聞記事と、指導者の考えに合わせてつくりかえた記事の例（モデル）を見比べ、目指す姿のイメージをつかむ。</p> <p>○同じ内容を取り上げた記事でも、記者の意図によって書き表し方が違うことに気付く。</p> <p>○モデルの記事の例から、単元の学習の流れと「評価をするときに基とするもの」を確認する。</p> <p>◆新聞にはどんな面があるかを見つれたり、記事の大まかなつくり気付いたりする。</p> <p>○興味のある面やコーナーからお気に入りの記事を探し、記事のストックへの意欲をふくらませる。</p>	<p>がら新聞記事を比べて読もうとしている。〔関〕★態度、発言、付箋</p>	<p>【集める】新聞記事をストックする</p> <p>【並行読書】新聞記事を読む</p>
二	<p>② ◆記事のつくりをつかむ。</p> <p>○見出しやリード、本文の働きや写真の役割をつかむ。</p> <p>◆実際の記事で確かめる。</p> <p>○関心のある記事を読み、見出しやリード、本文の働きや写真の役割を確かめる。</p>	<p>・記事に使われている言葉や文章の効果や構成について理解している。〔伝〕★付箋</p> <p>・実際の記事を読んで、記事の構成を読み取ることができる。〔読〕★態度、発言、付箋</p>	
	<p>③ ◆二つの記事を比較して読み、共通点をとらえる。</p> <p>○同じ話題を扱った二つの記事を比較して読み、どちらにも共通して取り上げられているキーワードを読み取り、事実と意見などとの関係をとらえる。</p> <p>◆二つの記事を比較して読み、相違点をとらえ、記者のメッセージを読み取る。</p> <p>○共通した事実のもと、記者の意図によって記事の内容にどのような違いが出てきているのかをとらえる。</p>	<p>・記事を比較して読んで共通点をとらえ、事実と感想、意見などとの関係を読み取っている。〔読〕★態度、発言、記述内容</p> <p>・記事を比較して読んで相違点をとらえ、事実と感想、意見などとの関係を読み取っている。〔読〕★態度、発言、記述内容</p>	
	<p>④ ◆二つの記事の、記者のメッセージを読み取る。</p> <p>○「A社、B社のメッセージはなんでショー」を開き、記者の意図によって記事の内容にどのような違いが出てきているのかをとらえる。</p> <p>○記者のメッセージがどのように書き表されているのかをとらえて読み、記者の表現の工夫をとらえる。</p> <p>◆自分が取り上げて再構成する記事を決め、読む。</p> <p>○記事を読み、自分の考えが明確に伝わるようにするためには、どのように再構成するのがよいか考える。</p>	<p>・見出し、リード文、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえている。〔読〕★記述内容</p> <p>・自分が取り上げた記事の、見出し、リード、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえ、その内容や表現方法について自分の考えを明確にしている。〔読〕★記述内容</p>	
三	<p>⑤ ◆取り上げた新聞記事を再構成する。</p> <p>⑥ ○第二次で学んだことを基に、取り上げた新聞記事について、自分の考えが明確に伝わるように再構成する。</p> <p>○再構成した記事を読み合い、意見交流する。</p>	<p>・「評価の観点」を知り、進んで新聞記事を再構成しようとしている。〔関〕★態度</p> <p>・見出し、リード、記事本文、写真の役割を理解し、自分の考えが明確に伝わるように内容や表現方法に気を付けて記事を再構成している。〔読〕★再構成した新聞記事</p>	
	<p>⑦ ◆「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開く。</p> <p>○自分の視点から再構成した新聞記事を紹介し合い、事実を踏まえた上で自分の考えが明確に書かれているかを評価（自己・相互）する。</p>	<p>・新聞記事を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。〔関〕★態度、発言、付箋</p>	

10. 各時間の学習展開例

(1) 第1時の展開例 (1/7)

ア 目標

発表のモデルを見たり新聞を読んだりする活動を通して、単元の学習に対して、興味や見通しを持つようとしている。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 単元全体の学習課題を設定する。 自分の考えに合わせて新聞記事をつくりかえ、「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開こう。	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事の紹介について興味を持たせるために、情報番組等の新聞紹介コーナーを想起させる。 第三次で、「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」をすることを合わせて伝える。 	
まなぶ	2. 単元の学習について見通しを持つ。 (1) 「先生のメッセージはなんでショー」を開き、実際の新聞記事と、指導者の考えに合わせてつくりかえた記事の例(モデル)を見比べ、目指す姿のイメージをつかむ。 ○実際の新聞記事とつくりかえた記事の例(モデル)を拡大して提示し、紹介する。 (2) 同じ内容を取り上げた記事でも、記者の意図によって書き表し方が違うことに気付く。 (3) モデルの記事の例から、単元の学習の流れと「評価をするときに基とするもの」を確認する。 主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> これからの学習の見通しを持たせるために、指導者の考えに合わせてつくりかえた記事の例(モデル)を示し、指導者が記事で伝えたかったメッセージについて考えさせる。 提示した記事を見比べさせることで、共通した事実を基に、記者の意図によって記事に違いが出ていることに気付けるようにする。 「評価をするときに基とするもの」を意識させるために、モデリングで使用した記事を配布し、その構成のポイントを押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の新聞記事と、指導者の考えに合わせてつくりかえた記事の例(モデル)から、学習の見通しを持つようとしている。[関] ★態度、発言、付箋
いかす	3. 実際の新聞にはどんな面があるかを見つけたり、記事の大きくなつくりかえに気付いたりする。 (1) 新聞にはどんな面があるかを見つける。 (2) 興味のある面やコーナーからお気に入りの記事を探し、記事のストックや並行読書への意欲をふくらませる。 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 (1) これからがんばっていききたいことや知りたいことなど、思ったことや考えたことを付箋に書く。 (2) 感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 継続して新聞をストックしたり並行読書したりすることを告げる。なお、新聞を購読していない家庭については、指導者がストックしたものを読みためていくようにする。 ○時の活動等で関心を持った記事の中から、つくりかえてみたい記事を選び始めておくよう助言する。 今後の学習への意欲につながるよう、時間があれば、本時の学習についての感想を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 記者の意図による新聞の編集の仕方や記事の書き方の違いに興味を持ち、新聞のよさや面白さを見つけながら新聞記事を比べて読もうとしている。[関] ★態度、発言、付箋



【授業改善のポイント】

この時間の

主体的な学び

「評価をするときに基とするもの」の観点を、児童と指導者が共有しておくことは大切です。児童に単元を貫いたためあてを持たせることで、どのような力を身に付けていけばよいのかが分かりやすくなります。モデルのような活動をするにはどんな力が必要か、児童が考える機会を設け、それを指導者が児童の言葉でまとめ、教室内の見えるところに掲示しておきましょう。

- ①元の記事に書かれている事実を読み取る力を付けよう！
- ②元の記事の、記者のメッセージを読み取る力を付けよう！
- ③元の記事に書かれている内容について、自分の考えを持つ力を付けよう！
- ④事実の部分と自分のメッセージの部分を意識して書く力を付けよう！
- ⑤自分の考えが分かるように、見出し、リード、本文、写真(絵)を工夫して書く力を付けよう！

*この5つができていたら○です。「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」で、読み手が「なるほど!」と思えたら◎です。

(2) 第2時の展開例 (2/7)

ア 目標

新聞の特徴や編集の仕方、記事の書き方などを理解し、新聞記事を読み取ることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日のピックアップ記事」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">新聞記事の構成を知り、必要な情報を読み取れるようになる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 「今日のピックアップ記事」を紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 新聞の特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書（P. 65～67）を読み、新聞の特徴と編集の仕方や記事の書き方を知る。 見出しやリード、本文の働きや写真の役割をつかむ。 		<ul style="list-style-type: none"> 記事に使われている言葉や文章の効果や構成について理解している。〔伝〕★付箋
いかす	3. 実際の記事で確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> 関心のある記事を読み、見出しやリード、本文の働きや写真の役割を確かめ、付箋に書いてはる。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; width: 100px; height: 40px; text-align: center; margin: 10px auto;"> 目的のある 交流 </div> 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 確かめたことや考えたことを全体で交流し合い、理解が深まるようにする。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の記事を読んで、記事の構成を読み取ることができる。〔読〕★態度、発言、付箋



【授業改善のポイント】

この時間の

目的のある
交流

新聞記事の特徴について実際の記事で確かめたことを伝え合い、その特徴についての理解を深めるための交流

この時間の「目的のある交流」では、教科書教材でつかんだ新聞の特徴（見出しやリード、本文の働きや写真の役割）について、実際の記事で確かめたことを交流します。

見出し…記事の中心を短い言葉で表したもの。

リード…記事の内容を短くまとめたもので、見出しの後に付いている。

本文 … 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」の六つの要素を押さえている。

写真 …読み手の興味をひくだけでなく、記事の内容を理解するのに役立ったり、内容によっては、記事以上に出来事の状態を伝える役目を果たしたりしている。

★実際の記事で、これらの働きや役割を確かめ、全体交流します。このことで、新聞の特徴や編集の仕方、記事の書き方などの理解を深めます。

(3) 第3時の展開例 (3/7)

ア 目標

二つの新聞記事を比較して読み、共通点や相違点を読み取ることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>0. 「今日のピックアップ記事」の紹介を聞く。</p> <p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 二つの新聞記事の共通点と、ちがうところをとらえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のピックアップ記事」を紹介し、児童に感じたことを発表させる。 ・前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ①	<p>2. 二つの記事を比較して読み、共通点をとらえる。</p> <p>(1) 同じ話題を扱った二つの記事(教科書P. 68～69)を読む。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 2px 10px; display: inline-block;">全体把握して読む</div> <p>(2) どちらにも共通して取り上げられているキーワードを読み取り、事実と意見などとの関係をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で発表し、共通理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 東京湾、多摩川、さかのぼる、アユ、200万匹など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・共通する部分の持つ意味について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通だと考えたところには本文に線を引くなど、印をしてから記述内容に書き出してもよいと伝える。 ・同じ話題を扱っていることから共通する部分は取材した事実であることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を比較して読んで共通点をとらえ、事実と感想、意見などとの関係を読み取っている。〔読〕★態度、発言、記述内容
まなぶ②	<p>3. 二つの記事を比較して読み、相違点をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 2px 10px; display: inline-block;">全体把握して読む</div> <ul style="list-style-type: none"> ・共通した事実のもと、記事の内容にどのような違いが出てきているのかをとらえる。 ・個人で考えた後、全体で交流する。 <p>4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点を押さえた上で、記事の内容（見出し、リード、記事本文、写真の内容）の相違点をまとめるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を比較して読んで相違点をとらえ、事実と感想、意見などとの関係を読み取っている。〔読〕★態度、発言、記述内容



【授業改善のポイント】

この時間の「まなぶ①」の

全体把握して読む

この時間の「全体把握して読む」では、教科書の二つの記事を読み比べ、どちらの記事にも出てくる共通した部分を見つけます。部分的に読むのではなく、両方の記事の全体を把握しないとできない作業です。二つの記事を俯瞰して読み比べていきます。

この時間の「まなぶ②」の

全体把握して読む

この時間の「全体把握して読む」では、教科書の二つの記事を読み比べ、記事の相違点を見つけます。共通した事実から、違った内容を取り上げて論を展開している部分に記者のメッセージは表れています。見出しやリードの部分に着目して考えさせると、メッセージがとらえやすいです。メッセージをとらえてから本文へと移ると、本文の違いがつかみやすいです。この活動によって、事実と意見を読み分ける力を育てます。

(4) 第4時の展開例 (4/7)

ア 目標

二つの新聞記事を比較して読み、記者のメッセージを読み取ることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日のピックアップ記事」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">二つの新聞記事の記者のメッセージを読み取ろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 「今日のピックアップ記事」を紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 「A社、B社のメッセージはなんでショー」を開き、記者の意図によって記事の内容にどのような違いが出てきているのかをとらえる。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">全体把握して読む</div> (1) A社、B社の記事の、記者のメッセージをとらえる。 ・個人で考えた後、隣同士で話し合った後、全体で交流する。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 5px auto; text-align: center;">目的のある交流</div>	<ul style="list-style-type: none"> 共通点を押さえた上で、見出し、リード、記事本文、写真の内容の相違点について考えるよう助言する。 記事の中心を短い言葉で表した見出しや、記事の内容を短くまとめたリード、記事本文の終末部分に着目させ、それぞれの記事の記者のメッセージをとらえさせる。 児童がとらえた記者のメッセージを発表させるとき、根拠となる表現、そこから考えたことについて交流し、児童が新聞記事を再構成するときに役立つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見出し、リード文、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえている。〔読〕★記述内容
いかす	3. 自分が取り上げて再構成する記事を決め、読む。 <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分の考えを明確にする場面</div> ・記事を読み、自分の考えが明確に伝わるようにするためには、どのように再構成するのがよいか考える。 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。	<ul style="list-style-type: none"> これまで読んだ記事の中から、どの記事を取り上げるか考えさせる。 記事を選びにくい児童には、指導者がこれまでに紹介した記事でもよいことを助言する。 記事を選んだら、取材された事実や記者のメッセージをとらえた上で、どのようなことをメッセージとして伝えたいか考えさせる。 自分の知識や経験と関係付けて、記事を再構成すればよいことを伝える。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り上げた記事の、見出し、リード、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえ、その内容や表現方法について自分の考えを明確にしている。〔読〕★記述内容



【授業改善のポイント】

この時間の「まなぶ」の

全体把握して読む

目的のある交流

自分がとらえた教材文の新聞記事のメッセージを、根拠を示して伝え合い、新聞記事の再構成につながるための交流

この時間では、「A社、B社のメッセージはなんでショー」を行います。各記事のメッセージ例は、次の通りです。

(A社) …初夏の多摩川に江戸前アユが二百万匹以上帰ってきた。今年もまた、釣りなどで人々を楽しませてくれるだろう。

(B社) …高度成長期のつらい時期を乗り越えて、多摩川に自然が戻ってきた。アユはその象徴だ。

このようなメッセージをとらえるためには、記事の表現方法に着目する必要があります。見出し、リード、記事本文の終末部分の違いに注目すると、メッセージがとらえやすいです。どのようなメッセージをとらえたかを、隣同士で交流します。そのときに、どの部分を根拠としているかを明らかにさせながら交流することが大切です。

この時間の「いかす」の

自分の考えを明確にする場面

この時間では、自分が取り上げて再構成する記事を決め、読んでいきます。スムーズに学習に入るためには、〇時からの並行読書を生かして、ある程度再構成してみたい記事を選んでおくとういことです。選ぶことが難しい児童には、指導者がこれまでに紹介した記事について再構成するように働きかけてもよいでしょう。

記事を再構成するためには、これまでの「読むこと」の学習を生かして、事実と記者のメッセージを読み分けてとらえる必要があります。その上で、自分の知識や経験と関係付けて記事を再構成するよう助言しましょう。

(5) 第5時の展開例 (5/7)

ア 目標

自分の伝えたいメッセージを基にして、取り上げた新聞記事を再構成できる。

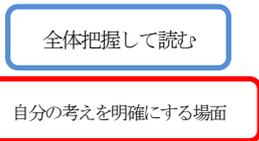
イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日のピックアップ記事」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">新聞記者になって、伝えたいメッセージを基にして新聞記事をつくりかえよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のピックアップ記事」を紹介し、児童に感じたことを発表させる。 ・前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
また学ぶ	2. 取り上げた新聞記事を再構成する。 (1) 新聞記事の再構成の評価の観点を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><児童に示す評価の観点> ①元の記事に書かれている事実を読み取る力を付けよう。 ②元の記事の、記者のメッセージを読み取る力を付けよう。 ③元の記事に書かれている内容について、自分の考えを持つ力を付けよう。 ④事実の部分と自分のメッセージの部分を意識して書く力を付けよう。 ⑤自分の考えが分かるように、見出し、リード、本文、写真（絵）を工夫して書く力を付けよう。</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">全体把握して読む</div> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分の考えを明確にする場面</div> (2) 第二次で学んだことを基に、取り上げた新聞記事について、自分の考えが明確に伝わるように再構成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時で示したモデルを利用して、具体的に示しながら評価の観点を押さえることで、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。 ・元の記事の要旨と、自分の伝えたいメッセージの違いを明らかにしてから書き始めるよう助言する。 ・自分の伝えたいメッセージが見出し、リードに反映するように意識させる。 ・記事本文では、事実と意見の違いを意識して書くことで、考えが伝わりやすくなることを告げる。 ・写真部分は、自分の意図に合わせた絵を描くことを伝える。 ・数種類、新聞の枠を用意し、選択できるようにする。 ・自分と関わらせて考えやすくなるように、児童の実態に応じて既習事項を基にしたヒントを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えからすると、中心になる言葉はこれだ！ ・この記事に書かれている事実はこれだ！ ・〇〇について、考えるきっかけになった！ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価の観点」を知り、進んで新聞記事を再構成しようとしている。〔関〕★態度 ・見出し、リード、記事本文、写真の役割を理解し、自分の考えが明確に伝わるように内容や表現方法に気を付けて記事を再構成している。〔読〕★再構成した新聞記事
いかす	3. 再構成した新聞記事を読み合い、意見交流する。 ・新聞記事を二人組で読み合い、より自分の考えが明確に伝わる記事になるよう助言し合う。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;">目的のある交流</div> 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・元の記事と再構成した記事を読み比べ、提示した評価の観点に基づいて助言し合うように伝える。 ・時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と記者のメッセージをとらえ、自分の考えを基に再構成した記事を読んで助言し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★再構成した新聞記事

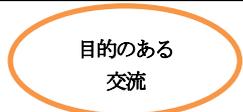


【授業改善のポイント】

この時間の



この時間の「自分の考えを明確にする場面」では、前時の学習を基に、自分の考えに基づいて実際に新聞記事を再構成します。第1時で提示した評価の観点を再提示し、確認してから活動を始めます。見出しは自分のメッセージを端的に示すもの、リードは要旨部分となり、記者のメッセージが表れやすい部分になります。



この時間の「目的のある交流」では、再構成した新聞記事を、評価の観点に基づいて助言し合います。交流することで、考えを深めることがねらいです。新聞記事の特性から、まず見出しやリードに自分のメッセージが表れているか、本文では事実とメッセージ部分が伝えたい意図によって明確に書き分けられているかなど、「読むこと」の学習がどれだけ反映しているかを見取るのがポイントです。

教材文の新聞記事を自分で再構成したものを基に、自分が考えたことを伝え合い、別の視点で考えたり、意見や助言を受けたりして、自分の考えを見つめ直すための交流

(6) 第6時の展開例 (6/7)

ア 目標

自分の伝えたいメッセージを基にして、取り上げた新聞記事を再構成できる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>0. 「今日のピックアップ記事」の紹介を聞く。</p> <p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 新聞記者になって、伝えたいメッセージを基にして新聞記事をつくりかえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のピックアップ記事」を紹介し、児童に感じたことを発表させる。 ・前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	<p>2. 取り上げた新聞記事を再構成する。</p> <p>(1) 新聞記事の再構成の評価の観点を再確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <児童に示す評価の観点> ①元の記事に書かれている事実を読み取る力を付けよう。 ②元の記事の、記者のメッセージを読み取る力を付けよう。 ③元の記事に書かれている内容について、自分の考えを持つ力を付けよう。 ④事実の部分と自分のメッセージの部分を意識して書く力を付けよう。 ⑤自分の考えが分かるように、見出し、リード、本文、写真(絵)を工夫して書く力を付けよう。 </div> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分の考えを明確にする場面 </div> <p>(2) 第二次で学んだことを基に、取り上げた新聞記事について、自分の考えが明確に伝わるように再構成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点を再確認し、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。 ・前時にモデルを示して確認しているので、本時では児童が新聞を再構成する時間を多く確保するように配慮する。 ・前時の交流で聞いた友だちの意見を参考にしながら書きまとめるよう助言する。 ・机間指導を行い、見出し、リード、記事本文の役割を意識して書くこと、事実と意見の違いを明確にして書くことを指導する。 ・数種類、新聞の枠を用意し、選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価の観点」を知り、進んで新聞記事を再構成しようとしている。[関] ★態度 ・見出し、リード、記事本文、写真の役割を理解し、自分の考えが明確に伝わるように内容や表現方法に気を付けて記事を再構成している。[読] ★再構成した新聞記事
いかす	<p>3. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	



【授業改善のポイント】

この時間の

自分の考えを明確にする場面

この時間では、前時の学習に引き続き、自分の考えに基づいて実際に新聞記事を再構成します。その際、前時の交流で聞いた友だちの意見を参考にしながら、考えをまとめていきます。第1時で提示した評価の観点について、簡単に確認してから活動を始めます。机間指導で、児童それぞれの様子に合わせて指導していくことに重点を置きます。

(7) 第7時の展開例 (7/7)

ア 目標

自分の視点から再構成した新聞記事の評価し合い、自分の考えを広げたり深めたりできる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日のピックアップ記事」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を開こう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のピックアップ記事」を紹介し、児童に感じたことを発表させる。 ・前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 自分の視点から再構成した新聞記事を紹介し合い、事実を踏まえた上で自分の考えが明確に書かれているかを評価(自己・相互)する。 <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分の考えを明確にする場面 </div> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> 目的のある 交流 </div> (1) 自分が再構成した記事を基に、「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・四人程度をベースにしたグループで紹介し合う。 ・互いの新聞記事について的事实・メッセージを読み取り合う。 ・記事に書かれた内容、メッセージ、その書き表し方について思ったことや感じたことを話し合う。 *評価の観点に沿って、友だちの新聞記事を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介を始める前に、前時の評価の観点を確認する。 ・再構成した新聞記事を読んで感じたことや考えたこと、評価の観点に基づいた評価を「きりりカード」(付箋)に書くよう助言する。 ・友だちの新聞記事を読み、内容について感じたことや考えたことを書くとき、自分の考えを明確にしながらかくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(関)★態度、発言、付箋
いかす	3. 学級全員で、「わたし・ぼくのメッセージはなんでショー」を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループの発表者のよかった点を紹介し合う。 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいメッセージが明確になっていたか、事実と意見がどのように書かれていたかなど、「読むこと」の学習が記事の再構成にどのように活かされていたか、という点について話し合う。 ・時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	



【授業改善のポイント】

この時間の

自分の考えを明確にする場面

目的のある
交流

自分が選んだ記事を再構成したものを基に、自分が考えたことをグループで伝え合い、確認したり参考にしたりして、学習のまとめをするための交流

ここでは、再構成した記事を紹介し合い、それぞれの記事のメッセージを読み取り合います。第二次の「読むこと」の学習で学んだ、「見出し、リード、記事本文、写真の内容を的確に押さえて記者の意図をとらえること」を生かして相互評価し合います。児童には、提示してある評価の観点を意識しながら、評価し合うことを意識させましょう。友だちの記事を読んで、自分の考えを明確にして伝え合います。

自分の考えに合った記事を書いて「わたし・ぼくのメッセージはなんでしょー」を開こう!! ②

五年 組 名前 ()

この時間の学習課題

教科書を読んで、新聞の構成をたしかめよう!



新聞記事の構成

それぞれの部分の持ちようをまとめよう。

関心のある記事を実際に読んで、それぞれの部分の働きや役割を確かめよう!



自分の考えに合った記事を書いて「わたし・ぼくのメッセージはなんでしょー」を開こう!! ③

五年 組 名前 ()

この時間の学習課題

教科書の記事を比べて読み、共通点を書き出そう!



写真、キャプション	リードや本文の内容	見出しの内容	比べる事柄	
			A社	取材した事実
			B社	
			考えたこと	

【 _____ の記事（ _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日）】 五年 組 名前（ _____ ）

Blank rectangular box for writing.

Large blank rectangular box for writing.

Blank rectangular box for writing.

Large blank rectangular box for writing, containing a horizontal line near the top.

Blank rectangular box for writing.

Blank rectangular box for writing.

★事実と記者のメッセージをとらえて、元の記事を読もう。

★事実と、自分の知識や経験とを関係付けて考えたことを、記事のメッセージにしよう。



キャプション

(写真や絵)

見出し (記事の中心を短く！)

記事本文 (いつ「どこ」で「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」をおさえよう！)

リード (記事の内容を短くまとめたもの)

★事実と記者のメッセージをとらえて、元の記事を読もう。

★事実と、自分の知識や経験とを関係付けて考えたことを、記事のメッセージにしよう。



【 _____ の記事（ _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日）】 五年 組 名前（ _____ ）

- ★事実と記者のメッセージをとらえて、元の記事を読もう。
- ★事実と、自分の知識や経験とを関係付けて考えたことを、記事のメッセージにしよう。



見出し（記事の中心を短く！）

（写真や絵）

リード（記事の内容を短くまとめたもの）

キャプション

記事本文（いつ」「どこで」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」をおさえよう）

★事実と記者のメッセージをとらえて、元の記事を読もう。

★事実と、自分の知識や経験とを関係付けて考えたことを、記事のメッセージにしよう。



【 _____ の記事（ _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日）】 五年 組 名前（ _____ ）

--	--

--	--

--	--

--

--

- ★事実と記者のメッセージをとらえて、元の記事を読もう。
- ★事実と、自分の知識や経験とを関係付けて考えたことを、記事のメッセージにしよう。



リード (記事の内容を短くまとめたもの)

見出し (記事の中心を短く!)

(写真や絵)

キャプション

記事本文 (「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」をおさえよう)

★事実と記者のメッセージをとらえて、元の記事を読もう。

★事実と、自分の知識や経験とを関係付けて考えたことを、記事のメッセージにしよう。



